

今回のテーマ

# しごとを測る!?

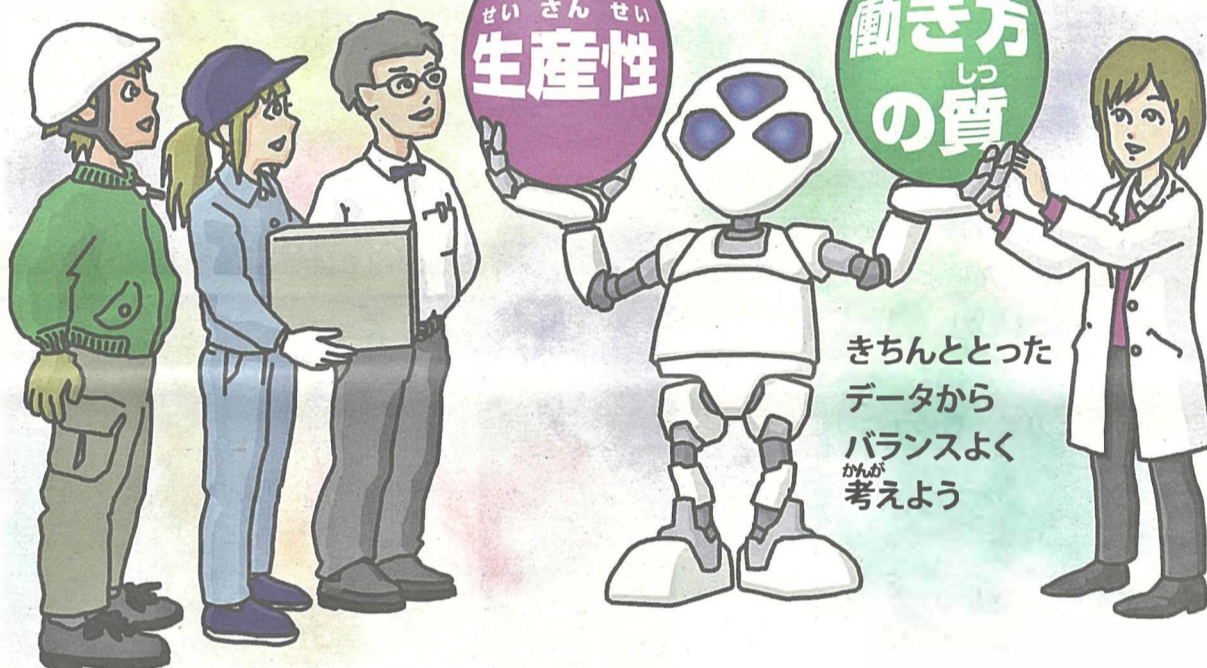
# ふしぎの ひみつきち

No.093

生産性と働く人の健康・働きやすさ・働きがいバランスよく向上させることが大切。

工場やレストランなどでは、一昔前まで大量に安く製品やサービスを生み出すために「生産性」が優先され、労働環境や自然への影響は軽視されていました。現代では、生産性だけではなく、職場を働きやすくすることや、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出を減らすことなど、さまざまな面での活動が求められています。そういった活動が行われているかどうか、会社の価値に影響するようになりました。

もっと良い職場をつくるために



きちんととったデータから  
バランスよく  
考えよう

### ◇働く様子をデータ化

私たちの研究チームでは、働く人の健康、働きやすさ、働きがいから構成される「働き方の質」に着目しています。生産性と働き方の質の両方を経験と勘だけで向上させようとすると、「あちら立てればこちらが立たぬ」でうまくいかない場合があります。そこで登場するのが、働いている様子を計測する技術です。どこで

どのくらいの動きのある作業をしているのかを電波やセンサーなどを使ってデータ化します。GPS(全地球測位システム)が使えない屋内空間でも位置情報を正確に記録できる計測システムも実用化されています。

作業負担の大きさ、作業のうまさ、チームワークの良さなどの物差しを決めて、得られた

データから「働き方の質」を評価していきます。このような分析技術により、具体的に数字で捉えながら、経験と勘だけにとらわれずに生産性と働き方の質を向上させることができるようになります。レストランの接客係が働きやすくなることと、お客さんへの充実したサービスを両立させ、働きがいを高めることができた例

もあります。

### ◇「働き方」SDGs直結

私たちの地球や生活を維持していくために掲げられた国際的な目標SDGsのいくつかの項目には、働き方の向上が大きく関わっています。これらの実現のためにも、働き方を分析する技術の開発は重要だと考えています。

### 今日の先生



蔵田武志さん

「家にゲーム機がなく、小3で買ってもらったパソコンでゲームを自作したのが研究者になるきっかけでした」

産業技術総合研究所(産総研)人間拡張研究センター。専門は、サービス工学とXR。出身小学校は山口県新南陽(現周南)市立富田東小。

### さんそうけんって?

日本で最大級の公的研究機関なんだ。茨城県つくば市など、全国12か所の研究拠点があって、日本の産業や社会に役立つ技術について研究を進めているよ。

キッズむけウェブページはこちら →  
(さんそうけんサイエンスタウン)

